

明キ
サザ浪又ハ山ヲロシ

※掛声ハ二度目ノミ

へ東雲早く明け行けば 浅茅色づく有乳山 氣比の海 宮居久しき神垣や 松の木の芽山 なほ行く先に見えたるは
へ 杣山人の板取 川瀬の水の麻生津や末は三国の湊なる 蘆の篠原波寄せて靡く 嵐の烈しきは

へ花の安宅に着きにけり

ツン、テン、ツン、テン、ツン、テン、ツン、
 エヨオオイ
 へ落ち葉
 かくなる
 里の童
 の
 野辺の

へ遊びも余念なく

イヤ
タ、
イヤ
タ、
ッハ
○
ス○
○、

イヤ
タ、
ス
●ジョイ、
●ヤア
○ハ、
○ハ
スア
○
○ハ、
○ヨイ、
●ヤ、
○ハ、
○イヤ
タ、
ハヲ

へこりやたがめづきちつちやこもちや桂の葉

ちんが ちがちがちんがらこ

へ先へ行くのは
酒屋のおてこ

ハラ

○
ス ○
ス ○ ○
○ ○
○ ○

ハ、
ハ、
○、

イヤ
タ
タ
ス ○ ○
○ ○

ハ、
ハ、
○、

エ
オ
オ
オ
イ

ド
テ
ツ
ン

へあとへ
退がるはおおかみきつね
あまが
紅付けて
ととやかかに
云はふよ

タ、タ、〇タ〇タ〇
ス
ス
ス
ス

(ヨイ) タ、
 (ヨイ) タ、
 タ、
 タ、
 ハラ
 ス
 イヤ
 タ、

葉ごしのく月の影

(二上り)
竹笛

裏のなあ 裏の背戸やの今年竹 笛にせうもの草笛に 笛になりたや忍ぶ夜の
 笛は思ひを口写し アゝアゝ しょうがいな しょうがいな
 忍ぶ 忍ぶその身は安宅の松よ 雪の夜毎の汐風に 揉まれ揉まれて立ちつくし
 ありしてこりしてしょうがいな ああ面白や ㊦

